

令和3年度前期学校関係者評価書

南アルプス市立小中一貫校八田小中学校
南アルプス市立八田小学校
南アルプス市立八田中学校

第1回学校関係者評価委員会

コロナ禍のため、紙面会議とし、自己評価結果について意見を頂いた。

1 意見(下線部は課題と考えられる事項)

(1) 学校経営に関わる意見

〈小学校〉

- ・「学校が楽しい」「給食当番や掃除をしっかりとやっている」という児童の割合が多くてホッとしました。一方で、あいさつでの大きな変化が見られないのが残念です。

〈中学校〉

- ・「学校生活が楽しい」という生徒が多いことをうれしく思います。
- ・おおむね良好な学校運営と受け取りましたが、不登校の生徒がいることが気になります。先生方の努力で解消に向かうよう期待します。

(2) 教育課程・学習指導に関わる意見

〈小学校〉

- ・家庭学習や家での読書の割合が少ないのが残念です。このような状況なので、自ら学習に取り組む児童を育成するように、学校全体での取り組みをさらに進めてほしい。
- ・朝、立腰タイムを実践していただいてうれしく思います。学習への姿勢を良くし、前向きに生きていくためにはとても大切なことだと思います。

〈中学校〉

- ・「授業がわかりやすくなった」という生徒が増加している点は良いが、「授業中に発言をしているか」という質問に対しては、数値が下がっている。発言を通して、自分がしっかりと学ぶという意識を持ってもらえるとう嬉しい。自分で考え、やる気を出さないと学力は上がらないが、もう少し自分の(近い)将来をイメージして学習してもらいたい。

(3) 児童・生徒指導に関わる意見

〈小学校〉

- ・肯定的回答が多く、うまく回っているように見えます。一方で、20名程度の児童が「学校が楽しくない」と答えているのが気になります。また、「授業がわからない」と答えた子供も同程度いるのは、何とか救っていかないと、これからの学校生活や授業、ひいては社会生活にも悪影響をもたらしかねないと危惧します。

〈中学校〉

- ・1学期に3件のいじめがあったようです。(新規1件、昨年度からの継続指導2件) 解消に向けて取り組み中とのことですが、いじめの早期発見、早期対応、未然防止に向けて全教職員で一致協力して取り組んでほしいと思います。

〈小中共通〉

- ・ SNSやゲームなどの関係なのか、他者とのコミュニケーション能力が低く自分の考えを伝えられない子どもが多いように感じます。顔を見合わせ話し合いをしたり相手の意見を尊重したりする機会が多くあると良いと思います。

(4) 特色ある開かれた学校に関わる意見

〈小学校〉

- ・ 特にこの夏休み中、感染対策のため、子どもの人とのかかわりが大幅に減りました。このような状況になって、たくさんの人たちとコミュニケーションを学べる学校生活の重要性を強く感じました。家族以外とほとんど挨拶をする機会がなかった子供たちに、改めて、まずはあいさつから始めて、コミュニケーションを大事にしていてもらえたらと思います。

〈中学校〉

- ・ 小学生よりも、中学生のほうが小中一貫校の実感を感じられていないように思います。特に中3の生徒たちは、小学生との交流の機会があれば、最高学年の9年生としての自覚や責任、緊張感がもう少し芽生えるのかなとは思いますが、コロナ禍では難しいので、後期は自分たちができること、すべきことを考えながら、残りの学校生活を精一杯過ごしてほしいと思います。

〈小中共通〉

- ・ 小中一貫校としての成果を知りたい。
- ・ 八田地区の子どもたちを育てるために、学校と地域がどのように連携・協力しあっていったらよいか、一緒に考えていきたい。

(5) その他の意見

〈小学校〉

- ・ 日頃より子供たちの指導に全力で取り組んで下さり、ありがとうございます。昨今話題になっている教職員の多忙化に関わって、ワーク・ライフ・バランスにも取り組みながら、今後とも引き続きよろしくお願ひします。
- ・ GIGAスクールについては、様々な面から有効活用されることを願っています。また、各家庭での価値観等が様々であるなど難しい面はありますが、正しく有効に利用できるようモラル指導の充実を図っていく必要があると思います。〈中学校〉
- ・ GIGAスクールに関して、先生方の苦労はありますが、これからの時代、少しでもPCやインターネット社会のルールなどについて学ぶことは重要だと思ひますので、良い学習環境を整えてもらえたらと思ひます。

〈小中共通〉

- ・ コロナ禍の中で、日々の学習活動、学校行事などで様々な制約があると思ひます。できることはしっかりと行い、児童・生徒が安全で安心に学校生活に取り組み、成果のある学校生活が送れるよう、全教職員が一丸となり、全力で取り組んでほしいと思ひます。
- ・ コロナや激動の世の中の変化に伴い、学校現場、先生方の大変さがうかがえます。便利で時短化される世の中へと移行していく中、小中学校教育目標の豊かさや、たくましい子供の育成は、ますます困難になりそうな気がしました。学校任せではなく、家庭でもしっかりと子供と向き合い、どんな時代や状況でも、自ら考え、乗り越え動くことのできるような人へと成長してほしいと思ひました。目の前のことではいいっぱいならず、広い視野を持てるような教育現場、家庭であってほしいと願ひます。

- ・コロナ禍の中で、児童生徒が不安に感じていること、不自由に感じていることを聞き取る質問項目があってもよかった。
- ・経年変化を見る際に、①昨年度の1年生が2年生に進級してどうなったかという比較と、②昨年度の2年生が今年度の2年生とどう違うかという比較の2通りが示されていると良い。

2 成果と課題（まとめ）

（1） 学校経営に関わって

小中ともに、概ね良好な評価といえる。一方で、あいさつの日常化、不登校の増加など、学校ごとに課題が見えており、継続して取り組んでいく必要がある。

（2） 教育課程・学習指導に関わって

コロナ禍で、授業中の発言の機会が減少していることは仕方がないが、今後とも、主体的・対話的で深い学びにつながる学習をめざし、さらなる授業改善が必要である。

あわせて、家庭学習や家読書の習慣化、学習意欲の向上を図る取り組みが必要である。

（3） 児童・生徒指導に関わって

「学校が楽しくない」「勉強がわからない」「いじめがある」等の、学校から遠ざかりがちな原因に目を向け、職員全体で解消していく努力を最優先で進める必要がある。

（4） 特色ある開かれた学校に関わって

小中一貫校の実感が中学生よりも小学生で高くなっているのは、小学校への乗り入れ授業(音・体・英)の成果であると考えられる。今後、中学生の実感を高めるために、中学生自身が「地域や小学生のためにできること」を考え、実践していく必要がある。(コロナ禍では、合唱交流や陸上指導など、できないことが多い中ではあるが。)

小中一貫校の成果を地域・保護者にお知らせしていく必要がある。

（5） その他に関わって

コロナへの対応、GIGAスクール(ICT教育)への対応、ワーク・ライフ・バランス(働き方改革)への対応等、変化し続ける社会的課題に対応した教育活動(学校改革)を、今後とも続けていく必要がある。